

新規ユーザ向け FAQ

この FAQ では、ThousandEyes プラットフォームとそのアクセス方法に関する一般的な質問に回答します。ほとんどの回答には、ThousandEyes ドキュメント内の記事へのリンクが掲載されています。この記事で回答が見つかった場合は、他の質問についても記事内を探されることをお勧めします。

ThousandEyes とは？

- [ThousandEyes](#) は 様々なエージェントを使ってターゲットに対して様々なテストを実行できる SaaS プラットフォームです。テストは、プラットフォームに表示されるカスタマイズ可能なアラートルールを使ってモニターできる指標を追跡するために作成されます。アラートルールでは、電子メールやその他の統合された通信手段による通知を設定することができます。
- ThousandEyes プラットフォームは、DNS 解決、ブラウザの応答特性、ネットワークパスと接続の細部、ネットワークルーティングのステータス、VoIP ストリーミング接続の品質を監視します。
- ネットワークに関するこれらの情報は、カスタムサーバ (ThousandEyes エージェント) が収集したデータを基にテスト結果として示されます。ThousandEyes エージェントは、ThousandEyes での開発・検証済みメソッドを使用してテスト対象を検査します。テストは 1 回限り (統計目的) で実行することも、複数の間隔 (カスタマイズ可能) でサンプリングすることもできます。
- 収集されたデータは、ダッシュボードなどで表示されます。ハイブリッドクラウドとプライベートネットワークの各分野を全体的に把握できるのが特徴です。ネットワークパスは、トラフィックのルートをマッピングする Path Visualization にて確認できます。このマップは実際の道路のストリートビューに似ており、各パス上のノードの特性を示します。

ThousandEyes の使用を開始するには？

- <https://www.thousandeyes.com/signup> から ThousandEyes の無料トライアルにお申し込みください。
- ログインしたら、テストを作成し、エージェントを利用して、アラートやその他のレポート機能を設定できます。

- すでにアカウントをお持ちの組織の場合は、組織内の管理者に連絡してユーザプロファイルの追加を依頼してください。
- 詳細については、[ThousandEyes の関連ドキュメント](#)を参照するか、または support@thousandeyes.com にお問い合わせください。

最初に着手すべきことは？

簡単な開始方法のひとつは、Web テストを構築することです。Web テストを構築するには ThousandEyes プラットフォームにアクセスする必要があります。アカウント内のワークスペースで **[+新しいテストの追加 (+ Add New Test)]** をクリックすると、デフォルトで Web HTTP サーバテストが選択されます。

テストを作成できない理由は？

一部のユーザはプラットフォームの利用権限が限られています。管理者レベルのユーザがテストを準備し、それを実行できる権限を他のユーザに付与することができます。権限とロールを確認するには、組織内の ThousandEyes アカウント管理者にお尋ねください。

詳細はこちらをご覧ください。

ThousandEyes プラットフォームのパスワードをリセットするには？

- ログインパスワードのリセットが必要になった場合は、アプリケーションページ (<http://app.thousandeyes.com/login>) のリンクをお使いください。
- **[パスワードを忘れた場合 (Forget password?)]** を選択すると、プラットフォームへのログインに使用した電子メールアドレスにメールが送信されます。
- 件名には「パスワードのリセット (Password Reset)」と書かれており、誤ってスパムに分類されることがあります。スパムフォルダに見つからない場合はサポートまでご連絡ください。
- シスコのセキュリティ方針により、パスワードをリセットできる回数は 24 時間に 1 度に限られています。何らかの理由で 24 時間以内にリセットが必要な場合は、ThousandEyes サポート (support@thousandeyes.com) までご連絡ください。

アカウントのアクティベーションを忘れてリンクのアクティベーション期限が切れた場合に有効化する手順とは？

- まだアカウントが登録されていない場合は、組織内の ThousandEyes アカウント管理者に連絡して、アカウントの再追加を依頼してください。アカウントがすでに登録されている場合は、support@thousandeyes.com にお問い合わせください。

パスワードリセットの電子メールが届かない場合

- パスワードリセット用の電子メールがスパムフォルダに紛れ込んでいる可能性があります。それでも見つからない場合は support@thousandeyes.com までご連絡ください。注：件名には「パスワードのリセット (Password Reset)」と書かれており、誤ってスパムに分類されることがあります。追加のサポートについては ThousandEyes サポートまでお問い合わせください。

14 日間のトライアルの前にトライアルアカウントを削除するには？

アカウントの削除方法：

1. ThousandEyes プラットフォームにログインします。
2. [\[アカウント設定 \(Account Settings\)\]](#) > [\[使用状況と請求 \(Usage and Billing\)\]](#) > [\[使用状況 \(Usage\)\]](#) タブに移動します。
3. [\[組織の削除 \(Organization Deletion\)\]](#) > [\[削除 \(Delete\)\]](#) をクリックします。

独自のエージェントを作成するには？

- お客様が管理するホストには独自のエージェントを導入できます。
- 導入するには、[\[クラウドと Enterprise エージェント \(Cloud & Enterprise Agents\)\]](#) > [\[エージェント \(Agent\)\]](#) > [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[新しい Enterprise エージェントの追加 \(Add New Enterprise Agent\)\]](#) をクリックします。
- エージェントの導入オプションは水平方向のボタンメニューに表示されます。

- 対応するインストール手順はパッケージタイプごとに異なります。
『インストールガイド』に記載されているか、またはスクリプトコマンドとして記載されています。すぐに導入できるパッケージタイプは、Appliance、Linux Package、Docker Agents の 3 種類です。以下の 3 件のリンクでは、VirtualBox にエージェントをホストとして導入する方法、Linux サーバにエージェントをインストールする方法、Digital Ocean のソリューションを使用してエージェントを Docker コンテナとして設定する方法について説明しています。
- [仮想アプライアンスを使用してエージェントを設定する方法](#)
- [Linux パッケージを使用して Enterprise エージェントを設定する方法](#)
- [Docker を使用して Enterprise エージェントを設定する方法](#)

Enterprise エージェントを導入できる OS は？

- 導入できる OS の最新情報については「[対応環境](#)」の記事をご覧ください。

エージェントとは？

- エージェントとは、カスタムの ThousandEyes ソフトウェアを実行する Linux サーバです。エージェントコレクタを使用してチェックインし、ThousandEyes プラットフォームから指示を取得します。ThousandEyes を使用する際は、エージェントの種類にご注意ください。
- Enterprise エージェントは、プラットフォームのテストを実行するためにユーザが導入できます。
- Cloud エージェントもテストにも使用できます。これは世界中の Tier 2 / Tier 3 データセンターのお客様すべてが使用できます。
- ThousandEyes が使用する別の種類のエージェントは Endpoint エージェントです。これは、Web ブラウジングのパフォーマンスとネットワーク接続に関するデータを収集します。Endpoint エージェントは、ユーザ指標をリアルタイムで取得するために、ユーザのワークステーションにインストールされます。
- エージェントの詳細については、次のドキュメントを参照してください。
- [Enterprise エージェント](#)
- [エージェントの設定方法](#)
- [Endpoint エージェントの仕組み](#)

ネットワーク外部から Cloud エージェントを使う際に制約がある場合、IP アドレスのリストの参照先は？

- ファイアウォールルールなどのフィルタを作成するために、ThousandEyes エージェントの IP アドレスが必要になる場合があります。ThousandEyes API を使えば、組織に割り当てられた Cloud エージェントと、アカウントグループに割り当てられた Enterprise エージェントの両方の IP アドレスを取得できます。ThousandEyes API にクエリを送信するには、wget、cURL、RESTful API をサポートするプログラミング言語、または [Postman](#) などの RESTful API クライアントを使用します。API の詳細については以下を参照してください。
 - ThousandEyes API サイト (<https://developer.thousandeyes.com/>) では、お客様のアカウントトークンで利用できるクエリの例をご覧ください。
 - シスコが提供する **te-iplist** CLI ユーティリティをダウンロードして使用することもできます。「[ThousandEyes Cloud エージェントの IP アドレスのリストを取得する方法](#)」のリンクにて、Linux、macOS、または Windows 用のユーティリティをダウンロードします。

使用するテストはどのように決めればいいのでしょうか？

- ThousandEyes は、Web、DNS、ネットワーク、ルーティング、音声といった多様なレイヤをテストします。各レイヤのテストには、さまざまな種類があります。
- 各テストはオンラインエクスペリエンスを多方面から確認します。この記事で言及されている一部のテストは、特定のアカウントプランでのみ使用できることに注意してください。また、すべてが網羅されていない場合もあります。
- ThousandEyes プラットフォームで Web テストの作成を開始するには、[\[クラウドと Enterprise エージェント \(Cloud & Enterprise Agents\) \] > \[テスト設定 \(Test Settings\) \]](#) に移動します。
- [\[+新しいテストを追加 \(+ Add New Test\) \]](#) をクリックします。
- Web テストに関するオンラインのチュートリアルビデオ：
<https://www.thousandeyes.com/resources/web-tests-tutorial>

アカウントグループトークンの入手先は？

- アカウントグループトークンは、Enterprise エージェントと、特定の ThousandEyes アカウントユーザが所有する特定のアカウントグループとの間で、一意の接続を確立するために使用されます。
- 詳細については、「[アカウントグループトークンの入手先](#)」を参照してください。

テストの結果を表示するには？

- ThousandEyes の画面でテスト結果を確認するには、[\[クラウドと Enterprise エージェント \(Cloud & Enterprise Agents\)\] > \[テスト設定 \(Test Settings\)\]](#) に移動します。
- この画面には各種のテスト設定が表示されます。結果を表示するには、リストの 2 番目の列にある [テストタイプ (Test Type)] という見出しのスタックアイコンをクリックします。
- テストが有効になっていればデータが表示されます。テストを有効にするには、テストリストの [有効 (Enabled)] 列のチェックボックスをオンにします。
- 有効になっていないテストでは、テストの名前をクリックして詳細を開き、そこから 1 回実行することもできます。テストの詳細の下部にある **[1 回実行 (Run Once)]** ボタンをクリックすると、サンプリングを 1 回実行できます。テストを有効にすると、設定の詳細で指定した [間隔 (Interval)] 設定に応じて、サンプリングが繰り返し実行されます。たとえば、テストの [基本設定 (Basic Settings)] タブで間隔を 30 分に設定し、[有効 (Enable)] ボックスをクリックすると、30 分ごとにテストが実行されるようになります。一般的なテストについては、テストに関する FAQ 項目 (以下のリンク) を参照してください。
- テスト結果を確認する際は、[\[ビュー \(View\)\]](#) レイアウトに移動すると便利です。
- 各種の指標については、[こちらの記事](#)を参照してください。

Web テストとは？

- HTTP リソースの可用性アクティビティをテストする場合は、Web テストを選択します。Web ベースのテストでは、Web サーバが応答しているかどうかや、渡された HTTP 応答コード / 参照しているルートオブジェクトに到達可能かどうかを確認できます。Web ページの読み込みテストでは表示要素をより詳細にテストします。テスト結果では到達可能な要素のウォーターフォール図と、各要素が受信されるまでの時間を確認できます。また、個々の読み込み要素に関連するエラーも表示されます。複数のステップがあるブラウジングアクションに対しては、Web トランザクションテストが最適です。FTP サーバテストは、FTP サイトへのアクセスをテストします。
- ThousandEyes プラットフォームで Web テストを作成するには、[\[クラウドと Enterprise エージェント \(Cloud & Enterprise Agents\)\] > \[テスト設定 \(Test Settings\)\]](#) に移動します。
- [\[+新しいテストを追加 \(+ Add New Test\)\]](#) をクリックします。
- **Web** レイヤを選択し、[\[Web テストタイプ \(Web Test Type\)\] > \[URL\] > \[間隔 \(Enabled\)\] > \[エージェント \(Agents\)\]](#) の順に選択してテストを実行します。
- テストを初めて作成する場合は、[\[アラート有効化 \(Alert Enable\)\]](#) のチェックボックスをオフにします。アラートの設定方法に関する FAQ もご覧ください。まずはテストを作成してみることをお勧めします。
- [\[新しいテストの作成 \(Create New Test\)\]](#) をクリックして、新しいテストを作成します。
- [HTTP サーバビュー](#)の詳細
- 詳細については、「[ページ読み込みビューの使用法](#)」をご覧ください。
- Web > FTP サーバをテストするには、「[FTP サーバビューの使用法](#)」を参照してください。

Web トランザクションテストとは？

- 前の回答で述べたように、複数のステップがあるブラウジングアクションを ThousandEyes でテストする場合、Web トランザクションテストが最適です。たとえば、ユーザがサイトにログインしてアイテムを検索できるかどうかを確認するには、トランザクションテストを使用してスクリプトを事前に作成します。
- トランザクションテストは、Selenium WebDriver を使用して Chromium ブラウザを制御します。

- トランザクションテストや Selenium を初めて使用する場合や、それらについて詳しくない場合は、ThousandEyes Recorder を使用して最初のトランザクションを作成できます。使い方を以下に解説します。これは、Microsoft Word でのマクロの作成に似ています。手順を完了したら、ThousandEyes Recorder からテストにエクスポートできます。
- トランザクションテストの詳細については「トランザクション スクリプト ガイド」を参照してください。

DNS テストとは？

- DNS テストでは、特定のドメインネームサーバへの解決をテストします。
- DNS サーバテストは、ターゲットサーバに対してクエリを実行します。
- DNS トレーステストは、ターゲットの DNS リソースレコードに対してクエリを実行します。
- DNSSEC トレーステストは、ターゲットの DNS レコードのキーチェーンに対して、下から順にグローバルに有効性を検証します。DNSSEC クエリにはバイナリ応答が含まれます。
- DNS サーバテストを設定するには、
 1. [\[Cloud および Enterprise エージェント \(Cloud & Enterprise Agents\)\]](#) > [\[設定のテスト \(Test Settings\)\]](#) に移動します。
 2. [\[+新しいテストを追加 \(+ Add New Test\)\]](#) をクリックします。
 3. レイヤカテゴリで [DNS] を選択し、[DNS テストタイプ] > [ドメイン (Domain)] > [テスト実行間隔 (Interval)] > [エージェント (Agent)] > [\[サーバのルックアップ \(Look up Servers\)\]](#) をクリックします。初めてテストを作成する場合は、[アラートの有効化 (Alert Enable)] ボックスの選択を解除し、新しいテストを作成します。
- [DNS サーバビューの使用方法](#)
- [DNS ドメイントレースビューの使用方法](#)

ネットワークテストの目的とは？

- ネットワークテストでは、ソース IP からターゲット IP へのパスの状態を調べます。またソースとターゲットの場所にあるエージェントを使用して、ソースからターゲットへのネットワーク（およびその逆方向）も測定します。それぞれのデータ収集方法の大きな違いは、以下をご覧ください。

- エージェントからサーバへのテスト - ICMP ベースの測定：
50 個の ICMP エコー要求パケットがソースエージェントからターゲット IP に送信されます。これらの要求に対するエコー応答のデータが比較され、遅延およびジッターの各指標がテスト結果として報告されます。
- エージェントからサーバへのテスト - TCP ベースの測定：
ソースエージェントからターゲットエージェントに 50 個の TCP SYN パケットが送信されます。これらの SYN 要求に対する SYN + ACK 確認応答のデータが比較され、テスト結果（指標）が生成されます。
- エージェント間テスト - TCP ベースの測定：エージェントからサーバへのテストと同じです。違うのは、50 個のプロブパケットが送信される前に、クロック同期ベンチマークが測定される点です。
- エージェント間テスト - UDP ベースの測定：「エージェント間テスト - TCP ベースの測定」と似ていますが、クロックオフセットの測定方法が異なります。
- ここでは、ソースエージェントからターゲットへのトラフィックの状態を把握するタスクが実行されます。ターゲットは IP アドレスにすることも、（パスがターゲットまで測定され、ソースエージェントに戻る場合は測定精度を高めるため）別のエージェントにすることもできます。
- ネットワークテストの詳細については、[「ネットワークテストの説明」](#)を参照してください。

ルーティングテストとは？

- BGP ルーティングテストは、ネットワーク内の自律システム (ASN) 間のルートが対象です。
- BGP モニタリングは、ルーティングの変更、到達可能性、および更新を追跡します。ローカルでの設定ミス、ピアリングの変更、ルートハイジャック（発生している場合）を検出できるほか、オフィス、データセンター、クラウドプロバイダー間のルーティングを把握できます。
- BGP テストは、BGP の可視化機能を使用するため、ルーティング問題の根本原因となっている可能性が高いネットワークを特定するのに役立ちます。到達不能プレフィックスのデータが収集され、到達可能性の測定に使用されます。

- ThousandEyes は、企業ネットワークとサービスプロバイダーネットワークの両方に対して、それらを起源とする BGP ネットワークルートを監視します。そのため BGP ローカルの誤設定、ピアリングの変更、ルートハイジャックに迅速に対応できます。
- プライベート BGP ルーティングモニタは、企業ネットワークからソースプレフィックス、または企業ネットワークから外部アプリケーション / サービスへのルートを検出するためにも使用できます。新たにアナウンス / 撤回されたルートは、それぞれ赤い線と赤い点線で可視化されます。
- ルーティングテストを作成するには、次の手順を踏みます。
 1. [\[Cloud および Enterprise エージェント \(Cloud & Enterprise Agents\)\] > \[設定のテスト \(Test Settings\)\]](#) に移動します。
 2. [\[+新しいテストを追加 \(+ Add New Test\)\]](#) をクリックします。
 3. レイヤカテゴリで [\[ルーティング \(Routing\)\]](#) を選択し、BGP テストタイプを選んでテストに名前を付け、プレフィックスとモニタを入力します。
- [BGP モニタリング機能の使用例紹介ビデオ](#)
- [Border Gateway Protocol \(BGP\) とは？](#)
- [BGP ルートの可視化ビューの使用方法](#)
- プライベート BGP モニタを設定する場合は、[インサイドアウト BGP の可視性に関する記事](#)を参照してください。

音声テストとは？

- 音声テストでは、Voice over IP (VoIP) コールの品質と可用性を調べます。音声パケットは等間隔の連続ストリームとして送信されます。ただしネットワークパスの輻輳によっては、他の音声パケットとは異なる任意のパスを通る場合があります。その結果、パケットの到着時間（つまり順序）が狂う可能性があります。音声テストを作成する際は、いくつかのオプションを使用できます。
 1. SIP サーバテストを使用すれば、コールのハンドシェイクをテストできます。SIP は Session Initiation Protocol の略で、音声、ビデオ、メッセージアプリケーションのセッションを開始、維持、終了するためのシグナリングプロトコルです。
 2. IP ネットワーク経路で音声・ビデオを配信するためのプロトコルは、RTP (Real-Time Transport Protocol Stream) と呼ばれます。RTP のテストも使用できます。
- [音声レイヤー](#)

インスタントテストと定期テストの違いとは？

- テストを有効にすると、選択した構成エージェントを使用して、指定間隔（テスト設定）でテスト結果を収集します。つまりテスト結果は、テスト設定で指定した間隔で収集されたデータに基づいていません。インスタントテストでは、テスト設定を 1 回実行します。これにより、スケジュールされたテストを待たずに問題をトラブルシューティングしたり、新しいテストの設定を検証したりできます。テスト構成で [1 回実行 (Run One)] ボタンをクリックすると、インスタントテストのデータ収集が開始され、新しいブラウザタブで結果が開きます。スケジュールされたテスト結果は、テストの短いリストで [テストタイプ (Test Type)] の横に表示されるレイヤアイコンをクリックすると表示されます。
- [インスタントテストの使用方法](#)

テスト作成後に表示されるビューが、テスト結果のビューと似ている件について

- ネットワーク測定（ネットワーク、HTTP サーバ（ネットワーク測定が有効な場合）、ページ読み込み（ネットワーク測定が有効な場合）、または DNS サーバ（ネットワーク測定が有効な場合））を含むテストを作成すると、通常は BGP ルート可視化ビューが表示されます。ここではパスの可視化も確認できます。そのため、ThousandEyes 内の多くのビューはレイアウトが似ています。

ThousandEyes の外でテストやエージェントの一覧を確認できる他の方法は？

- API を使用すれば ThousandEyes データにアクセスできます。コマンドラインツールを実行して、REST API エンドポイントから JSON または XML の出力を取得します。リクエストの例を含む詳細なクックブックについては、[ThousandEyes Developer サイト](#)を参照してください。

削除したテストを復元するには？

- 14 日以内であれば、[Cloud と Enterprise エージェント (Cloud & Enterprise Agents)] > [テスト設定 (Test Settings)] > [テスト (Tests)] のテストリストから削除したテストを復元できます。テストリストの右側にはごみ箱アイコンがあり、その横には削除されたテストの数が表示されます。いずれかの場所をクリックすると、復元画面が開いて削除されたテストの一覧が表示されます。

テストの作成後にテストターゲットを修正・変更したくても、編集できない理由は？

- 既存のテストでターゲットを編集できない理由は、収集されたデータを個別のターゲットごとに保持するためです。テストターゲットが編集可能だと、本来は異なる 2 つのデータセットが 1 つの結果に集約されることとなります。つまり、異なるターゲットの古い結果が、誤入力または更新されたターゲットに対して収集された（性質上は一意的）結果データと並んで表示されます。
- テストターゲットが完全に一致しないため、過去のテスト結果の整合性に影響することとなります。ターゲットが異なると結果も異なるため、分離することは不可欠です。ただしテストを作成した後も、ターゲット以外であればすべて変更できます。テストターゲットを修正・変更する唯一の方法は、設定を複製し、ターゲットの部分だけ修正して保存することです。
- [テスト設定の操作](#)

一部のエージェントが Web HTTP テストで DNS 解決エラーを報告しているが、DNS サーバにエラーが表示されない場合

- Web HTTP テストではまず DNS 解決をテストし、ブラウザの応答を検証します。その間に、いくつかの手順を実行します。その後、Connect への 3 方向 TCP ハンドシェイクの確立、SSL のネゴシエーション（該当する場合）、HTTP 要求の送信、HTTP 応答の受信、受信した応答の検証などもチェックします。HTTP テストでは、Enterprise エージェントは「/etc/resolv.conf」ファイルで指定された DNS サーバを照合します。DNS 解決テストの結果は、テストに含まれる各エージェントのローカルマップに基づきます。そのため結果のエラーは、ソース（HTTP サーバのテスト結果画面で表として表示される）によって異なる場合があります。これに対して DNS サーバテストでは、テスト対象で指定されたサーバに直接クエリが実行されます（「DNS サーバ」フィールドを参照）。DNS トレースでは、ドメインスペースの各ゾーンについて、権限があるネームサーバを照会します。ドメインスペースのルートから開始し、トップレベルドメイン（TLD）に向かいながら、権限のある応答を受信するまでテストを続けます。一般的な TLD は、.com、.net、.org などのよく知られたドメインです。

- DNS サーバおよび DNS ドメイントレースビューの詳細については、次の記事を参照してください。
 - [DNS サーバビューの使用方法](#)
 - [DNS ドメイントレースビューの使用方法](#)

アラートを設定する方法は？

- ThousandEyes プラットフォームではアラートを利用できます。アラートの管理は [[アラート \(Alerts\)](#)] > [[アラートルール \(Alert Rules\)](#)] に移動します。
- ThousandEyes アラートの仕組み
- [ThousandEyes アラートルールの作成と編集](#)

BGP アラート条件がクリアされる頻度は？

- BGP モニタリングは 15 分ごとに更新されます。
- ThousandEyes は、システム内でアラートをトリガーさせたプレフィックスをすべて 7 日間保持します。アラートを停止するには、アラートを発生させる特定のプレフィックスを削除します。メンテナンス期間中にアラートを表示させないようにするには、「[アラート抑制ウィンドウ](#)」を参照してください。
- ThousandEyes BGP モニタリングの詳細については、[次のブログ記事](#)を参照してください。

アラートで利用できる通知や統合コミュニケーションの手段は？

- アラートルールを設定すれば、電子メールで通知を受け取れます。設定は、アラートルール設定ダイアログの [[通知 \(Notifications\)](#)] タブで行います。通知の別の形式は Webhook です。この形式では、アプリケーションにデータを配信する HTTP 要求 (通常は POST) が送信されます。Webhook の設定要素は名前と URL です。ユーザ名/パスワード、トークン、または OAuth URL / クライアント ID クレデンシャルなどの認証タイプを含めることもできます。現時点で AppDynamics、Slack、PagerDuty、ServiceNow との連携に対応しています。
- [AppDynamics との統合](#)
- [Slack との統合](#)
- [PagerDuty との統合](#)
- [ServiceNow との統合](#)
- [Webhook の利用方法](#)

Endpoint エージェントとは？

- Endpoint エージェントは通常、特定のホストから Web ブラウジングのパフォーマンスとネットワーク接続に関するデータを収集します。Endpoint エージェントとエンドポイントビューの詳細については、次の記事を参照してください。
 - Endpoint エージェント
 - Endpoint エージェントに関してよくある質問

エンドポイントデータ収集を設定するには？

- エンドポイントデータ収集の設定については、「Endpoint エージェントの設定」を参照してください。

設定後、Endpoint エージェントデータを確認するには？

- エンドポイントデータは、[ビュー (Views)] > [エンドポイントデータ (Endpoint Data)] を選択して、プラットフォームの画面で参照できます。この画面には、[スケジュールテスト (Scheduled Test)]、[Web (Web)]、[ネットワーク (Network)]、[セッションの詳細 (Session Details)]、[ネットワークトポロジ (Network Topology)] という複数のビューが表示されます。[こちらの記事](#)では、ThousandEyesEndpoint エージェントによって収集されるデータについて説明しています。
- Endpoint エージェントビューの詳細については、次の記事を参照してください。
 - Endpoint エージェントビュー：スケジュールされたテスト
 - Endpoint エージェントビュー：Web
 - Endpoint エージェントビュー：ネットワーク
 - Endpoint エージェントビュー：セッションの詳細
 - Endpoint エージェントビュー：ネットワークトポロジ

ユニット課金の仕組みとは？ テストの実行にかかる費用は？

- ThousandEyes でスケジュールされたテストとインスタントテストを実行した場合、テストの実行に使うエージェント（Cloud エージェント / Enterprise エージェント）に基づいて料金が請求されます。エージェント間テストの場合、ターゲットエージェントが Cloud エージェントか Enterprise エージェントかに応じて課金されます。Cloud エージェントとの間でテストを実行すると、ユニット単位で課金されます。テストを実行すると、契約で指定されているように、お客様の組織が購入した毎月のユニットからテスト費用が差し引かれます。ユニット数は契約単位に毎月リセットされます。
- 詳細については、[ユニットの使用に関する記事](#)を参照してください。

Enterprise エージェントをファイアウォールの内側に導入するには？

- ファイアウォールの内側に Enterprise エージェントを導入するには、追加の設定が必要になります。エージェントが ThousandEyes プラットフォームとデータを送受信できるように、ファイアウォールルールを設定する必要があります。エージェントは特定のポートを使用してプラットフォームと通信するため、これらのポートをファイアウォールで許可リストに登録する必要があります。関連記事や、エージェント用のネットワーク設定における注意事項は、次のとおりです。
 - [ThousandEyes エージェントがプラットフォームとの通信に使用するポートを確認する](#)
 - [Enterprise エージェントのポートフォワーディング](#)
 - [エージェント間テストのための NAT トラバース](#)

ユーザログインで SSO の使用を必須にするには？

- 適切な権限を持つユーザであれば、シングルサインオン (SSO) または ThousandEyes ログインページを経由したログインを制限できます。これらのオプションは、[ロールベースのアクセス許可制御 (Role-based Permissions Control)] ページにあります。このページを表示するには、プラットフォームのブラウザ画面で、右上にある [ユーザ (User)] アイコンをクリックします。
 1. ユーザアイコンの下の [アカウント設定 (Account Settings)] をクリックします。

2. [**ロール (Roles)**] タブをクリックします。[**ロールベースの権限制御 (Role-based Permission Control)**] ボックスにリストが表示されます。
 3. [**すべてのアクセス許可 (All Permissions)**] の下に「login」と入力して、リストにフォーカスを移します。
 4. 2 つの権限が表示されます。この操作を許可するには、[**シングルサインオンでログイン (Login via Single Sign-On)**] を選択します。
 5. [**ThousandEyes ログインページでログイン (Login via ThousandEyes login page)**] をオフにします。
- ロールベースのアクセス制御の詳細については、こちらの記事を参照してください

ログインすると **Cannot Login Interactively** というメッセージが表示される場合、そのメッセージの意味とは？**

- このメッセージが表示される場合、電子メールとパスワードでインタラクティブにログインする権限がありません。ThousandEyes SSO ログインページ (<https://app.thousandeyes.com/login/sso>) からログインする必要があります。
- 「ThousandEyes のログインページでログイン」権限をユーザに追加して、インタラクティブにログインすることもできます。こちらの記事をご覧ください。

HTTP テストで結果の HTTP サーバビューに 400 番のエラーコード「Invalid Upgrade Request」が表示され、表の応答コード列のリンクが「Connection: Upgrade. HTTP2-Settings; Upgrade: h2c」のようになるのに、ターゲットサイトにはブラウザでアクセス可能な理由は？

- HTTP サーバの [**詳細設定 (Advanced settings)**] タブにて、HTTP 要求のバージョンを [**HTTP を優先 (Prefer HTTP / 2)**] に変更すると、テスト結果でこのエラーが出なくなることが多くあります。その理由は、ターゲット URL が HTTP/2 をサポートしていない可能性があるためです。さらにサポートが必要な場合は、support@thousandeyes.com までお問い合わせください。
- [テスト設定の操作](#)

テスト結果が 403 エラーとなっている場合、考えられる原因は？

- 一般的に、403 は HTTP ステータスコードを表します。何らかのセキュリティ問題により、クライアントがターゲット URL にアクセスできないことを意味します。この場合、クライアントにターゲット URL へのアクセスが許可されていません。これにはさまざまな理由が考えられますが、一般的な例としては、有効なクライアント証明書を要求している場合や、ソースの IP アドレスが制限されている場合があります。有効なクライアント証明書を要求している場合は、クライアント証明書のテキスト設定を確認します。IP が制限されている場合は、テストで使用するエージェントの IP をホワイトリストに登録する必要があるか確認します。
- さらにサポートが必要な場合は、support@thousandeyes.com までお問い合わせください。また以下の記事も併せて参照してください。
 - [Enterprise エージェントへの CA 証明書のインストール](#)
 - [ThousandEyes エージェントからのトラフィックの特定](#)